

“自分と人権問題がつながる” “学びが行動につながる” 参加体験型人権・部落問題プログラム（RAAP（ラップ）） ファシリテーターの輪が広がっています！

人権学習・研修の現場からは、「人が集まらない」「内容がマンネリ化して」「参加者になかなか人権問題を自分のこととして捉えてもらえない」等たくさんの悩みがきこえてきます。こんな悩みを解決するために、参加体験型人権・部落問題プログラム（RAAP）はつくられました。

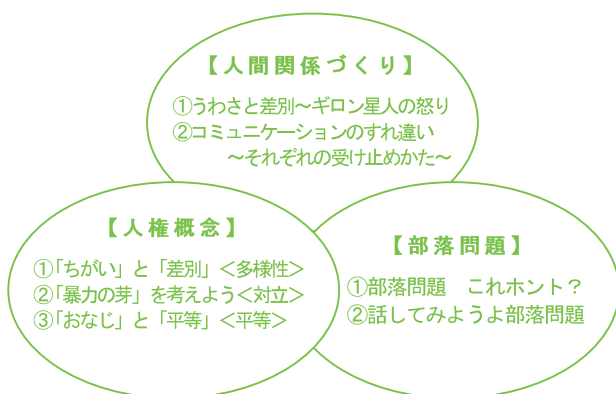
このプログラムは、「人権尊重のための人間関係づくり」を2つ、「人権概念として多様性・対立・平等」の3つ、「部落問題」の2つの計7つのプログラムによって構成されています。

このプログラムを実施できるファシリテーターの養成講座では、経験豊富な講師陣と、プログラムの体験から理論学習とファシリテーター実習までがセットになった内容で、現場での実践力を養います。また、参加者から出されたさまざまな不安や疑問には、具体的に対応策を考える内容も盛り込まれるなど、修了後に行う実践を支える講座内容となっています。

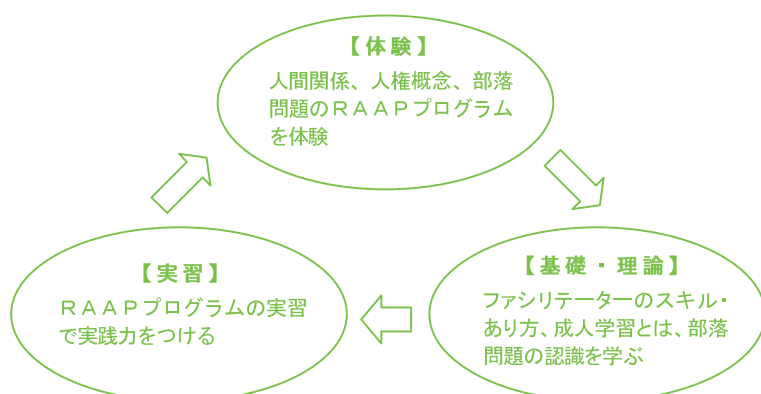
2010年度より開始したファシリテーター養成講座では、29人のご参加をいただいています。講座後には、参加者からRAAPを活用し研修や学習を進めた報告が出されるなど、少しずつRAAPの実践が広がっています。

RAAPを実施できるファシリテーターになって、「自分と人権問題がつながった」「自分も何かしよう！」と思える人権学習・研修をともに創造しましょう！

【RAAPプログラム】



【養成講座】



■RAAPプログラムとは

Rights(権利)…自分と人権・部落問題とのつながりを見つけ、
Action(行動)…人権を守る行動へと結びつく学習を、
Active Learning(参加型学習)…参加体験型学習で展開し、
Participation(参画)…人権社会づくりに積極的に関わる

■RAAPファシリテーター養成講座講師陣

上杉孝實さん（京都大学名誉教授）
 大谷眞砂子さん（八尾じんけん楽習塾）
 栗本敦子さん（Facilitator's LABO(えふらぼ)）
 森実さん（大阪教育大学）

